

エコアクション21

2022 年度環境経営レポート

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日



®環境省

エコアクション21

認証番号0013851

変わらない安心を、変わる技術で。



山本工作所

作成日 2023年12月1日

目次

1. 組織の概要、認証・登録対象範囲	・・・1
2. エコアクション21 実施体制	・・・2
3. 環境経営方針	・・・3
4. 環境経営目標	・・・4
5. 環境経営計画	・・・5
6. 環境経営の取組結果とその評価及び試行期間後 2022 年度内の取組内容	・・・6
7. 環境関連法規などの順守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	・・・8
8. 代表者による全体の評価と見直しの結果	・・・8

1. 組織の概要、認証・登録範囲

事業所名	株式会社山本工作所		
代表者名	代表取締役社長	山本 和男	
設立年月日	1948年11月24日（創立年月日：1946年5月14日）		
資本金	1億円		
所在地	本社	福岡県北九州市八幡東区大字枝光 1950番地の10	
	大牟田事業所	福岡県大牟田市東泉町 21番地の1	
	鞍手事業所	福岡県鞍手郡鞍手町大字室木字岩河内 765番地の1	
	東京支店	東京都中央区日本橋本町 4丁目 15番 1号タカコービル 6階	
	大阪支店	大阪府大阪市西区西本町 1丁目 7番 8号柴田東急ビル 6階	
環境管理責任者	常務取締役	三木 信之	
連絡担当者名	総務部	井上 聡司	
連絡先	TEL	(093) 681-2431	
	FAX	(093) 681-2432	
	E-mail	soumu@k-yamako.co.jp	

事業内容と事業規模

事業名称	産業分類	事業内容	主要製品
ドラム缶事業	金属製品製造業	ドラム缶の製造	鋼製ドラム缶
エンジニアリング事業	はん用機械器具製造業	産業用機械装置の設計、製作	バグフィルタ式集塵機 チューブラコンベア スーパーエルボ
請負事業	設備工事業	セメント工場向け設備保全	—
	輸送用機械器具製造業	組立業務請負	—

事業名称	売上高		合計
	2022/3~9	2022/10~2023/3	2022/3~2023/3
ドラム缶事業	3,992百万円	3,960百万円	7,952百万円
エンジニアリング事業	1,454百万円	500百万円	1,954百万円
請負事業	423百万円	439百万円	862百万円
全社売上高	5,869百万円	4,899百万円	10,768百万円

2023/3/1時点	本社	大牟田	鞍手	東京	大阪	合計	鞍手除く
従業員数(人)	210	27	43	8	3	291	248
延べ床面積(m ²)	25,416	4,507	—	155	78	30,157	30,157

※従業員数は組織で働く全ての者（役員、社員、嘱託、パート、派遣）

事業年度 2021年度まで：3月～翌年2月 2023年度から：4月～翌3月

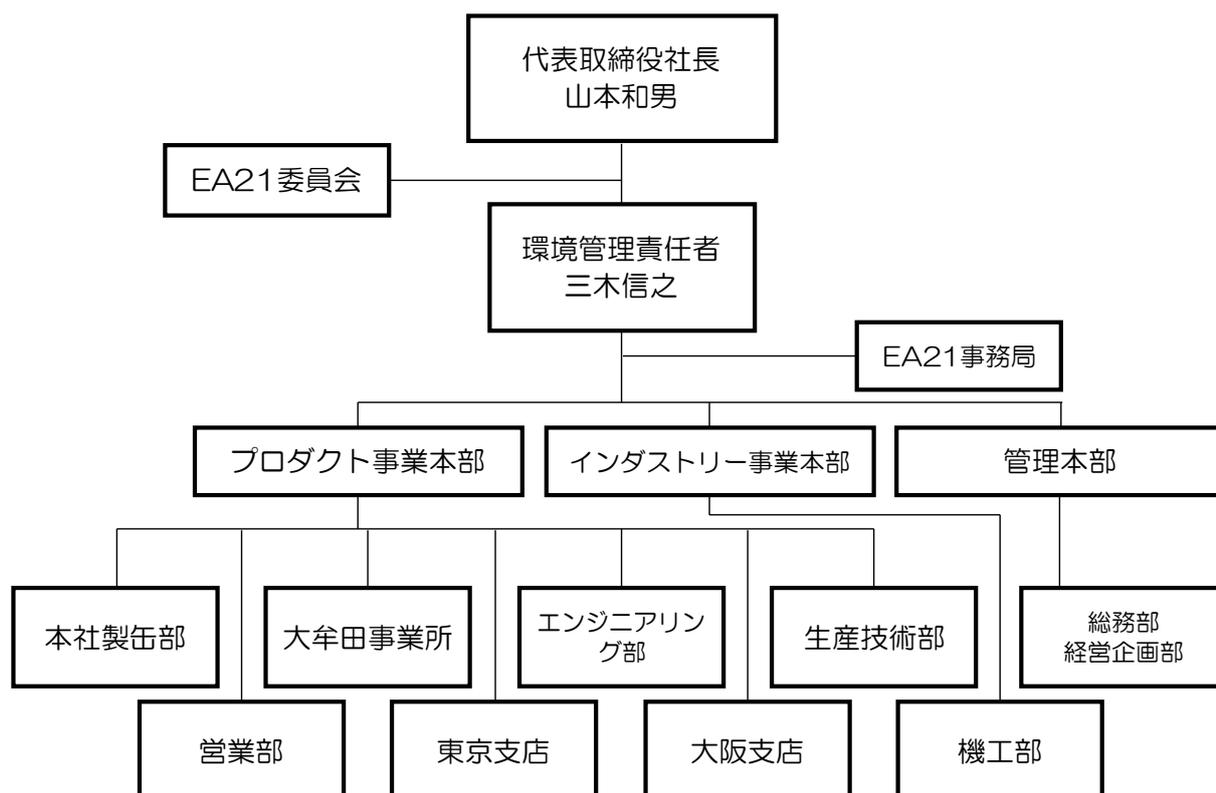
※2022年度は移行期間のため、2022年3月～9月、10月～2023年3月

認証・登録範囲 対象：株式会社山本工作所 本社・大牟田事業所・東京支店・大阪支店

対象外：鞍手事業所（請負事業者先でISO14001に取組中）

上記により、認証登録範囲は全社・全活動を対象としている。

2. エコアクション21 実施体制



氏名	役職	役割
山本和男	代表取締役社長	全体の統括、経営における課題とチャンスの明確化、環境方針の設定、実務体制の構築、環境への取り組みを実施するための資源の準備、全体の評価と見直し。
三木信之	常務取締役 管理本部長	全体の把握。環境経営システムを構築し、運用し、その状況を社長に報告する。
EA21 委員会		3ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議する。
EA21 事務局（総務部）		EA21 文書及び記録類の作成・維持・管理。EA21 委員会の運営事務。
各本部長		EA21 委員会メンバー。 担当事業部におけるEA21の遂行を統括する。
各部長・所長・副支店長・次長		EA21 委員会メンバー。 担当部門におけるEA21の遂行を統括する。
各室長・工場長		自部門においてEA21を推進し、管理する。

3. 環境経営方針

基本理念

株式会社山本工作所は、『変化に対応し、常に新しい価値を創り出すことにより、広く社会に貢献する』という経営理念のもと、社会と地球環境に貢献できる企業活動を目指します。

また、「地球環境への配慮は企業の社会的責任と認識し環境保全を図る」を経営方針の1つとし、これを全社員が認識し、法令を遵守し自主的で積極的な地球環境改善への取り組みを行います。

これらを実現するための手段として、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し、運用することにより、継続的かつ着実に環境保全活動を行い、持続可能な社会と持続可能な会社の実現を目指します。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し、継続的に環境保全活動を行います。そのため、以下の事項を重点的に取り組みます。

1. 事業活動に関連する環境関連法規、及び当社が受け入れたその他の要求事項を遵守します。
2. 電力及び燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄物の削減及び3R活動の推進に努めます。
4. 水使用量の削減に努めます。
5. 化学物質の適正使用・適正管理に努めます。
6. グリーン購入を推進します。
7. 社内の環境保全に努めるとともに、地域の美化活動等に積極的に参画することで地域社会との共生に努めます。
8. 本環境方針は、全ての社員に周知するとともに、社外一般にも開示します。

制定 2022年7月1日

株式会社山本工作所
代表取締役社長 山本 和男

4. 2022年度 環境経営目標

環境経営方針を踏まえて、6つの大項目について環境経営目標を設定しました。

特にエネルギー削減に対する目標は、基準年度（2021年度）をベースとし、省エネ法の目標から、毎年1%の削減で設定しました。ドラム缶事業においては生産数量の増減による各値への影響が大きく、そのような影響が考えられる項目は原単位による目標も設定しました。

環境目標		単位	基準年度	目標			
			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	3,936,310	3,896,947	3,857,978	3,819,398	
	1-1 電力使用量の削減	kWh	4,450,680	4,406,173	4,362,111	4,318,490	
		本社	kWh	3,677,880	3,641,101	3,604,690	3,568,643
		大牟田	kWh	750,000	742,500	735,075	727,724
		東京	kWh	13,888	13,749	13,612	13,476
		大阪	kWh	8,912	8,823	8,735	8,647
	1-2 軽油使用量の削減	ℓ	2,520	2,495	2,470	2,445	
		本社	ℓ	1,454	1,439	1,425	1,411
		大牟田	ℓ	1,066	1,055	1,045	1,034
	1-3 ガソリン使用量の削減	ℓ	19,195	19,003	18,813	18,625	
		本社	ℓ	17,667	17,491	17,316	17,143
		大牟田	ℓ	865	857	848	840
		東京・大阪	ℓ	662	656	649	643
1-4 灯油使用量の削減	ℓ	66,743	66,076	65,415	64,761		
	本社	ℓ	450	446	441	437	
大牟田	ℓ	66,293	65,630	64,974	64,324		
1-5 都市ガス使用量の削減（本社）	m ³	672,323	665,600	658,944	652,354		
1-6 液化石油ガス（大牟田）	kg	45,652	45,195	44,743	44,296		
2	2-1 廃棄物排出量の削減	t	2,915	2,886	2,857	2,828	
		本社	t	2,801	2,773	2,745	2,718
		大牟田	t	114	113	112	111
2-2 コピー用紙購入量の削減	枚	1,027,000	1,016,730	1,006,563	996,497		
3	3-1 水使用量の削減	m ³	68,207	67,524	66,849	66,181	
		本社	m ³	52,217	51,694	51,177	50,666
		大牟田	m ³	15,990	15,830	15,672	15,515
3-2 排水量の削減	m ³	51,706	51,189	50,677	50,170		
4	化学物質の適正利用	本社外面塗装原単位維持	g/本	142	143	143	143
		本社内面塗装原単位維持	g/本	254	255	255	255
		大牟田原単位維持	g/本	160	160	160	160
5	製品・サービスに関する事項	本社ドラム缶仕損率の低減	%	0.29	0.29	0.29	0.29
		本社小型缶仕損率の低減	%	1.59	1.59	1.59	1.59
		大牟田製缶仕損率の低減	%	0.56	0.56	0.56	0.56
		エンジ部クレーム費率の低減	%	0.35	0.35	0.35	0.35
6	環境への負荷が少ない製品・サービスの導入	グリーン購入比率の拡大	%	9%	15%	17%	20%

（以下原単位）

環境目標		単位	基準年度	目標		
			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	本社ドラム電力原単位	kWh/本	2.14	2.27	2.27	2.27
2	本社小型缶電力原単位	kWh/本	2.09	2.27	2.27	2.27
3	大牟田ドラム電力原単位	kWh/本	2.59	2.60	2.60	2.60
4	灯油原単位（大牟田）	ℓ/本	0.23	0.19	0.19	0.19
5	ドラム都市ガス原単位（本社）	m ³ /本	0.45	0.42	0.42	0.42
6	小型缶都市ガス原単位（本社）	m ³ /本	0.50	0.48	0.48	0.48
7	液化石油ガスLPG原単位（大牟田）	m ³ /本	0.38	0.40	0.40	0.40

※購入電力のCO2排出係数について、いずれも2021年度で、本社・大牟田分は九州電力の係数0.479、東京分は東京電力エナジーパートナーの係数0.441、大阪分は2020年度関西電力の係数0.318を用いた。（係数はいずれも調整後排出係数。単位：kg-CO2/kWh）

5. 2022年度 環境経営計画

環境経営目標を達成するための実行計画として以下の通り環境経営計画を立てました。大きな省エネだけでなく、全社員が小さな省エネ活動を積み上げることも計画しました。

1. 二酸化炭素総排出量の1%削減

取組目標		活動項目		責任者	7~9月			10~12月			1~3月		
					7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
1	電力使用量の削減	1	工場事務所照明のLED化	総務部				○			○		
		2	離席時のPCモニターOFF	総務室（全社）	○			○			○		
		3	ブラインド利用による日射遮蔽	総務室（全社）	○			○					
		4	不在時の消灯（ロッカー等）	総務室（全社）	○			○			○		
		5	不要時の電源OFF	総務室（全社）	○			○			○		
		6	老朽空調機の更新検討	総務室							○		
		7	室外機の冷却対策	総務室							○		
		8	空調機等フィルター清掃	総務室							○		
2	軽油使用量の削減	1	フォークリフトの適正使用	製缶部	○			○			○		
3	ガソリン使用量の削減	1	「エコドライブ10のすすめ」実行	総務室（全社）	○			○			○		
4	灯油使用量の削減	1	ボイラー更新による削減	大牟田事業所						○			
		2	部品洗浄時の適正利用	製缶部	○			○			○		
5	都市ガス使用量の削減	1	乾燥炉稼働時間短縮	本社製缶工場						○			
6	液化石油ガス使用量の削減	1	乾燥炉稼働時間短縮	大牟田事業所						○			

2. 廃棄物総排出量の1%削減

取組目標		活動項目		責任者	7~9月			10~12月			1~3月		
					7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
1	産業廃棄物の削減	1	分別の徹底	総務室（全社）	○			○			○		
2	一般廃棄物の削減	1	分別の徹底（廃棄、売却、リサイクル）	総務室	○			○			○		
		2	適切な回収業者の探索・選定	総務室								○	
3	コピー用紙使用量の削減	1	両面・集約機能の活用	総務室（全社）	○			○			○		
		2	配布資料の削減・厳選	総務室（全社）	○			○			○		
		3	印刷部数の適正化（余剰なし）	総務室（全社）	○			○			○		

3. 水使用量の1%削減

取組目標		活動項目		責任者	7~9月			10~12月			1~3月		
					7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
1	水使用量の削減	1	節水表示実施	総務室	○			○					
		2	節水こまの設置検討	総務室							○		
		3	漏水点検	総務室	○			○			○		

4. 化学物質使用量の適正使用

取組目標		活動項目		責任者	7~9月			10~12月			1~3月		
					7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
1	本社製缶工場原単位の維持	1	毎月の原単位確認	本社製缶工場	○			○			○		
2	大牟田製缶工場原単位の維持	1	毎月の原単位確認	大牟田事業所	○			○			○		

5. 製品・サービスに関する取り組み

取組目標		活動項目		責任者	7~9月			10~12月			1~3月		
					7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
1	製缶部門不良率の低減	1	本社製缶工場仕損率の低減	製缶部	○			○			○		
		2	大牟田製缶工場仕損率の低減	大牟田事業所	○			○			○		
2	厚板部門製品性能の向上	1	クレーム発生の低減	エンジニアリング部	○			○			○		

6. 環境への負荷が少ない製品・サービスの導入

取組目標		活動項目		責任者	7~9月			10~12月			1~3月		
					7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
1	グリーン購入比率の拡大	1	事務用品中の金額比率拡大	総務室	○			○			○		
2	名刺の再生紙化	1	名刺の再生紙化	総務室	○			○			○		

7. 会社周辺の清掃

取組目標		活動項目		責任者	7~9月			10~12月			1~3月		
					7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
1	清掃活動	1	定期清掃（社内・正門付近）	総務室（全社）	○			○			○		
		2	東田清掃活動参加	総務室（全社）							○		

6. 2022年度 環境経営の取組結果とその評価

(1) 2022年度における環境経営目標の実績と評価

環境目標	単位	基準年度	2022年度	2022年度	当期間の評価			
		2021年度	目標	実績	判定	コメント		
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	3,936,310	3,896,947	3,606,663	○	本社・大牟田ともに生産量減少によるCO2排出量の減少も大きいものの、相応の省エネが実現。	11 省エネルギーを推進する	
1-1 電力使用量の削減	kWh	4,450,680	4,406,173	4,136,091	○	本社は、2021年秋に工場照明をLED化。その効果が表れている。大牟田は生産量が少なかったことに見合う使用量の減少。		
	本社	3,677,880	3,641,101	3,493,630	○			
	大牟田	750,000	742,500	622,000	○			
	東京	13,888	13,749	11,263	○			
1-2 軽油使用量の削減	ℓ	2,520	2,494	2,176	○	全社で目標値は達成。絶対量が少なく、特異な事例もないため現使用状況を維持。	7 省エネルギーを推進する	
	本社	1,454	1,439	1,457	×			
大牟田	ℓ	1,066	1,055	719	○			
	東京・大阪	662	656	806	×			
1-3 ガソリン使用量の削減	ℓ	19,195	19,004	17,810	○	ハード的には順次ハイブリッド車への入れ替えを実施している効果。(普通車両の約7割がハイブリッド車への入れ替え完了)	12 つくば未来をつくり出す	
	本社	17,667	17,491	16,264	○			
	大牟田	865	857	740	○			
1-4 灯油使用量の削減	ℓ	66,743	66,076	46,914	○	本社は増加も誤差範囲。大牟田は生産量が少なかったことにより使用量も減少。	13 環境意識に具体的な行動を	
	本社	450	446	450	×			
大牟田	ℓ	66,293	65,630	46,464	○			
1-5 都市ガス使用量の削減(本社)	m³	672,323	665,600	635,766	○	2022年4月に浴室用ボイラーをより省エネ型に更新。2022年10月に工場乾燥炉の稼働時間を見直し。		
1-6 液化石油ガス(大牟田)	kg	45,652	45,195	30,127	○	生産量が少なかったことにより使用量も減少。		
2-1 廃棄物排出量の削減	t	2,915	2,886	2,802	○	大がかりな活動は出来ていないが、削減傾向で推移。	15 廃棄物を減らす	
	本社	2,801	2,773	2,702	○			
	大牟田	114	113	101	○			
2-2 コピー用紙購入量の削減	枚	1,027,000	1,016,730	641,500	○	使用者の意識高揚。(両面・集約等の活用、モニター活用による削減)		
3-1 水使用量の削減	m³	68,207	67,524	60,542	○	いずれも目標値を達成。本社では、食堂厨房設備の更新による効果が表れている。大牟田は生産量が少なかったことによる減少。本社では漏水を検知し速やかに対応を行った。(漏水量は微量)	12 つくば未来をつくり出す	
	本社	52,217	51,694	47,839	○			
	大牟田	15,990	15,830	12,703	○			
3-2 排水量の削減	m³	51,706	51,189	47,074	○			
4 化学物質の適正利用	本社外面塗装原単位維持	g/本	142	143	133	○	いずれも目標値を達成。大牟田は生産量が少なかった中、原単位を維持。	8 働きがいも経済成長も
	本社内面塗装原単位維持	g/本	254	255	253	○		
	大牟田塗装原単位維持	g/本	160	160	160	×		
5 製品・サービスに関する事項	本社ドラム缶仕損率の低減	%	0.30	0.30	0.12	○	仕損率は大きく低減。大型クレームがあり、悪化。	9 顧客とサプライヤーの関係を強化する
	本社小型缶仕損率の低減	%	1.64	1.64	1.31	○		
	大牟田製缶仕損率の低減	%	0.56	0.56	0.46	○		
	エンジン部クレーム費率の低減	%	0.35	0.35	2.40	×		
6 環境負荷が少ない製品・サービスの導入	グリーン購入比率の拡大	%	9%	15%	20%	○	事務用品(グリーン購入)購入実績の見える化により製品選択の意識向上。	11 省エネルギーを推進する

原単位実績・評価

環境目標	単位	基準年度	2022年度	2022.4~	当期間の評価	
		2021年度	目標	累計実績	判定	コメント
1 本社ドラム電力原単位	kWh/本	2.14	2.14	2.12	○	本社の生産量は対前年比で減少したものの原単位は前年度並みを維持。一方、大牟田事業所においては、お客様の事情による生産量の減少が大きく響き、エネルギー原単位は軒並み悪化した。
2 本社小型缶電力原単位	kWh/本	2.09	2.09	2.02	○	
3 大牟田ドラム電力原単位	kWh/本	2.59	2.59	2.90	×	
4 灯油原単位(大牟田)	ℓ/本	0.23	0.23	0.22	○	
5 ドラム都市ガス原単位(本社)	m³/本	0.45	0.45	0.44	○	
6 小型缶都市ガス原単位(本社)	m³/本	0.50	0.50	0.47	○	
7 液化石油ガスLPG原単位(大牟田)	m³/本	0.38	0.38	0.34	○	

※購入電力のCO2排出係数について

本社・大牟田分=0.479(九州電力)、東京=0.441(東京電力エナジーパートナー)、大阪=2020年度の0.318(関西電力)を用いた。(係数はいずれも調整後排出係数。単位: kg-CO2/kWh)

(2) 2022 年度における環境経営計画の取組結果とその評価

1. 二酸化炭素総排出量の1%削減

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 電力使用量の削減	1 工場事務所照明のLED化	総務部	○	社内照明はほぼLED化完了。
	2 離席時のPCモニターOFF	総務室（全社）	○	浸透見られる。
	3 ブラインド利用による日射遮蔽	総務室（全社）	○	ブラインドを設置している窓は基本遮蔽ができています。
	4 不在時の消灯（ロッカー等）	総務室（全社）	△	昼休み、残業時の不要電灯の消灯は出来ている。（不在時消灯漏れ有）
	5 不要時の電源OFF	総務室（全社）	○	昼休みの消灯、残業時の不要消灯。
	6 老朽空調機の更新検討	総務室	○	実施。
	7 室外機の冷却対策	総務室	△	一部、室外機に遮熱シートを貼付。継続して取り組み。
	8 空調機等フィルター清掃	総務室	○	実施。
2 軽油使用量の削減	1 フォークリフトの適正使用	製缶部	○	長時間停止時のエンジンストップ実施。
3 ガソリン使用量の削減	1 「エコドライブ10のすすめ」実行	総務室（全社）	○	実施確認は難しいが、意識は高まり、使用量の減少に繋がっている。
4 灯油使用量の削減	1 ボイラー更新による削減	大牟田事業所	○	更新完了。
	2 部品洗浄時の適正利用	製缶部	○	規定に従った利用を実施。
5 都市ガス使用量の削減	1 乾燥炉稼働時間短縮	本社製缶工場	○	実施。
6 液化石油ガス使用量の削減	1 乾燥炉稼働時間短縮	大牟田事業所	○	実施。

2. 廃棄物総排出量の1%削減

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 産業廃棄物の削減	1 分別の徹底	総務室（全社）	△	基本は出来ているが、1度異なる物の廃棄があった。（全社に周知）
2 一般廃棄物の削減	1 分別の徹底（廃棄、売却、リサイクル）	総務室	○	
	2 適切な回収業者の探索・選定	総務室	×	未着手、継続して取り組み。
3 コピー用紙使用量の削減	1 両面・集約機能の活用	総務室（全社）	○	コピー用紙使用量は顕著に減小。
	2 配布資料の削減・厳選	総務室（全社）	○	
	3 印刷部数の適正化（余剰なし）	総務室（全社）	△	注意しコピーするも、余剰が発生する場合がある。

3. 水使用量の1%削減

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 水使用量の削減	1 節水表示実施	総務室	○	掲示済み。
	2 節水こまの設置検討	総務室	×	未実施。
	3 漏水点検	総務室	○	未使用時（夜間）のメーター値を日々確認。漏水を複数回確認。

4. 化学物質使用量の適正使用

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 本社製缶工場原単位の維持	1 毎月の原単位確認	本社製缶工場	○	管理状態良好。原単位はやや未達も誤差の範囲。
2 大牟田製缶工場原単位の維持	1 毎月の原単位確認	大牟田事業所	○	生産量の大幅減により原単位が悪化するも、管理状態は問題なし。

5. 製品・サービスに関する取り組み

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 製缶部門不良率の低減	1 本社製缶工場仕損率の低減	製缶部	○	問題なし。
	2 大牟田製缶工場仕損率の低減	大牟田事業所	○	問題なし。
2 厚板部門製品性能の向上	1 クレーム発生の低減	エンジニアリング部	○	個別案件対応のため、再発防止活動を継続。

6. 環境への負荷が少ない製品・サービスの導入

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 グリーン購入比率の拡大	1 事務用品中の金額比率拡大	総務室	○	金額比率上昇。
2 名刺の再生紙化	1 名刺の再生紙化	総務室	○	9月発注分から再生紙に切り替え。

7. 会社周辺の清掃

取組目標	活動項目	責任者	評価	コメント
1 清掃活動	1 定期清掃（社内・正門付近）	総務室（全社）	○	定期実施が定着している。
	2 東田清掃活動参加	総務室（全社）	○	10月実施。（14名参加）

(3) 2023 年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境経営目標は2022年度の取り組み結果の1%を削減目標に設定します。

当社はエネルギー消費の大部分を工場が占めています。工場生産設備を更新（省エネ化）する等の大きな省エネ活動も重要ですが、工場だけではなく社員一人ひとりが環境問題に対する認識を深め、全社員で取り組む小さな省エネ活動の積み上げが大切と考え、2022年度の環境経営計画を継続して取り組んでまいります。

7. 環境関連法規などの順守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

当社が遵守しなければならない主な環境関連法規等は次の通りです。

公害防止組織法	大気汚染防止法	水質汚濁防止法 (瀬戸内法)	悪臭防止法
騒音規制法	土壌汚染対策法	浄化槽法	化管法 (PRTR法)
工場立地法	温対法	省エネ法	消防法
労働安全衛生法	高圧ガス保安法	廃棄物処理法	フロン排出抑制法

それらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘及び訴訟もありませんでした。

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2022年度はエコアクション21の認定取得初年度の活動期間でありました。

環境経営目標として2021年度実績から1%削減を目標として省エネ活動に取り組んだ結果、2022年度は目標を達成することができました。

当社のエネルギー消費量はドラム缶事業が大きなウエイトを占めており、ドラム缶工場の生産設備を更新(省エネ化)することで大きな削減効果が期待できます。一方、エコアクション21の本質は全組織・全活動を対象とした自主的かつ積極的な環境への取り組みであると考えます。その実現のためには社員一人ひとりが環境や社会に配慮した行動を心がけ、“自分ごと化”していくことが必要不可欠です。まずは全社員にエコアクション21に基づく環境経営システムと環境保全に対する行動が浸透することを目指し、目標に対する進捗状況や環境関連情報を定期的に発信することで社員の意識高揚を図ってまいります。

また、弊社は2030年度までにCO2排出量46%削減(2013年度比)を目標としており、目標達成のため、非化石エネルギーの導入等も視野に入れ、中長期的な検討を進めてまいります。

【総合避難訓練の様子】

